



Human Metabolome Technologies, Inc.

2026年6月期第3四半期 決算補足説明資料

2026年5月

ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社 (6090)

本資料の一部またはすべての複製・転載は、お断りいたします。

© Human Metabolome Technologies, Inc.

バイオものづくり支援は好調にサービスを開始するも、ライフサイエンス研究支援でアカデミア分野での売上が大幅に減少した結果、売上高が減少。売上高の減少に伴い、営業利益・経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益も減少。

(単位：百万円未満切捨)
(表中の△は損失)

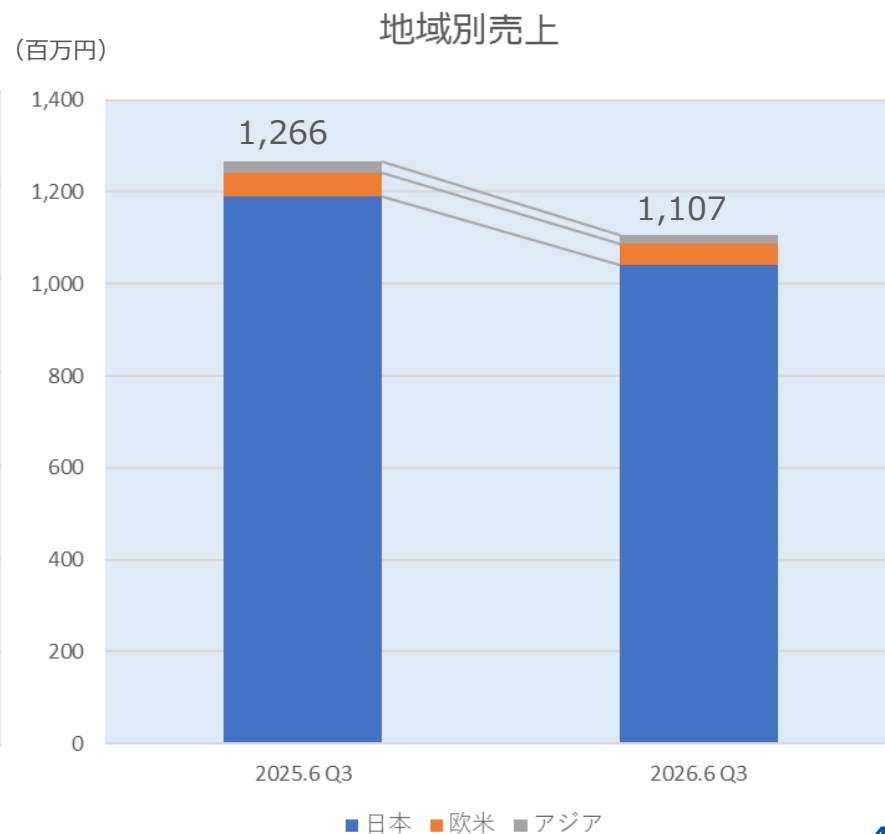
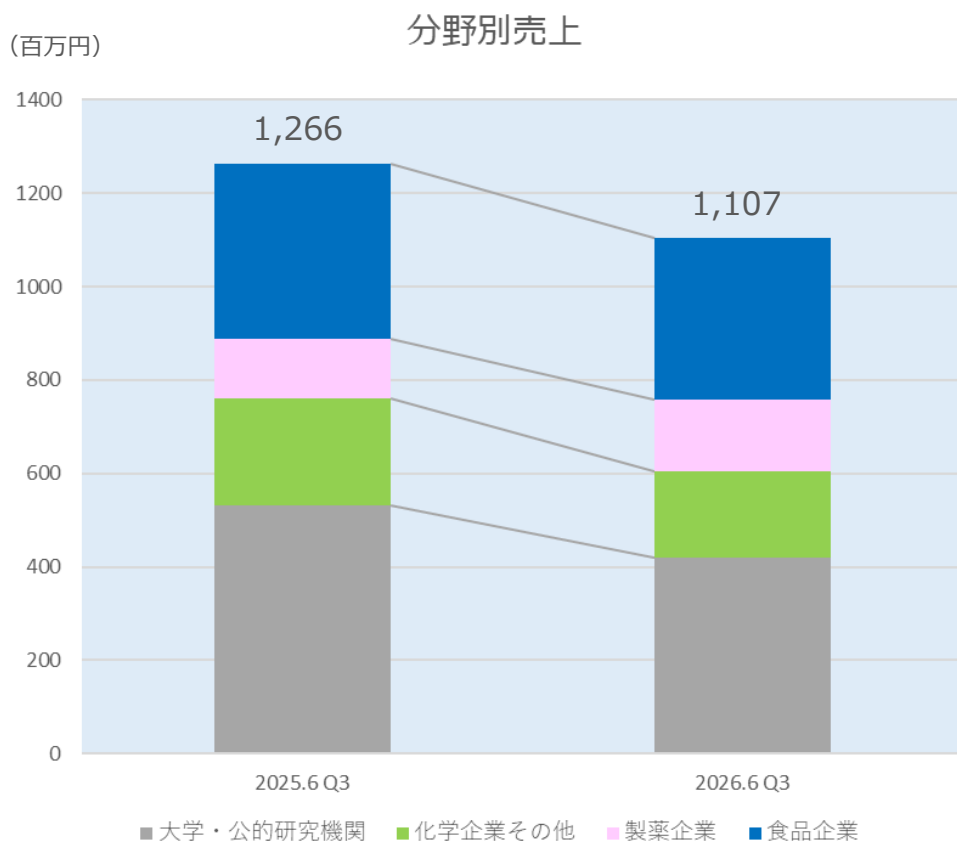
	2025年6月期 第3四半期	2026年6月期 第3四半期	増減額	増減率
売上高	1,266	1,107	△ 159	△12.6%
営業利益	353	208	△ 145	△41.1%
経常利益	342	209	△ 132	△38.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	304	165	△ 138	△45.6%
1株当たり四半期純利益 (円)	51.53	29.35	△ 22.18	-

バイオものづくり支援サービスは計画を上回る拡大となるも、ライフサイエンス研究支援は、主にアカデミアで大型案件が減少。
機能性素材開発支援は、顧客の臨床試験スケジュールにより大型案件がQ4に計上予定のため減少。全社で売上が減少。

(単位：百万円) (表中の△は減少・百万円未満切捨て)

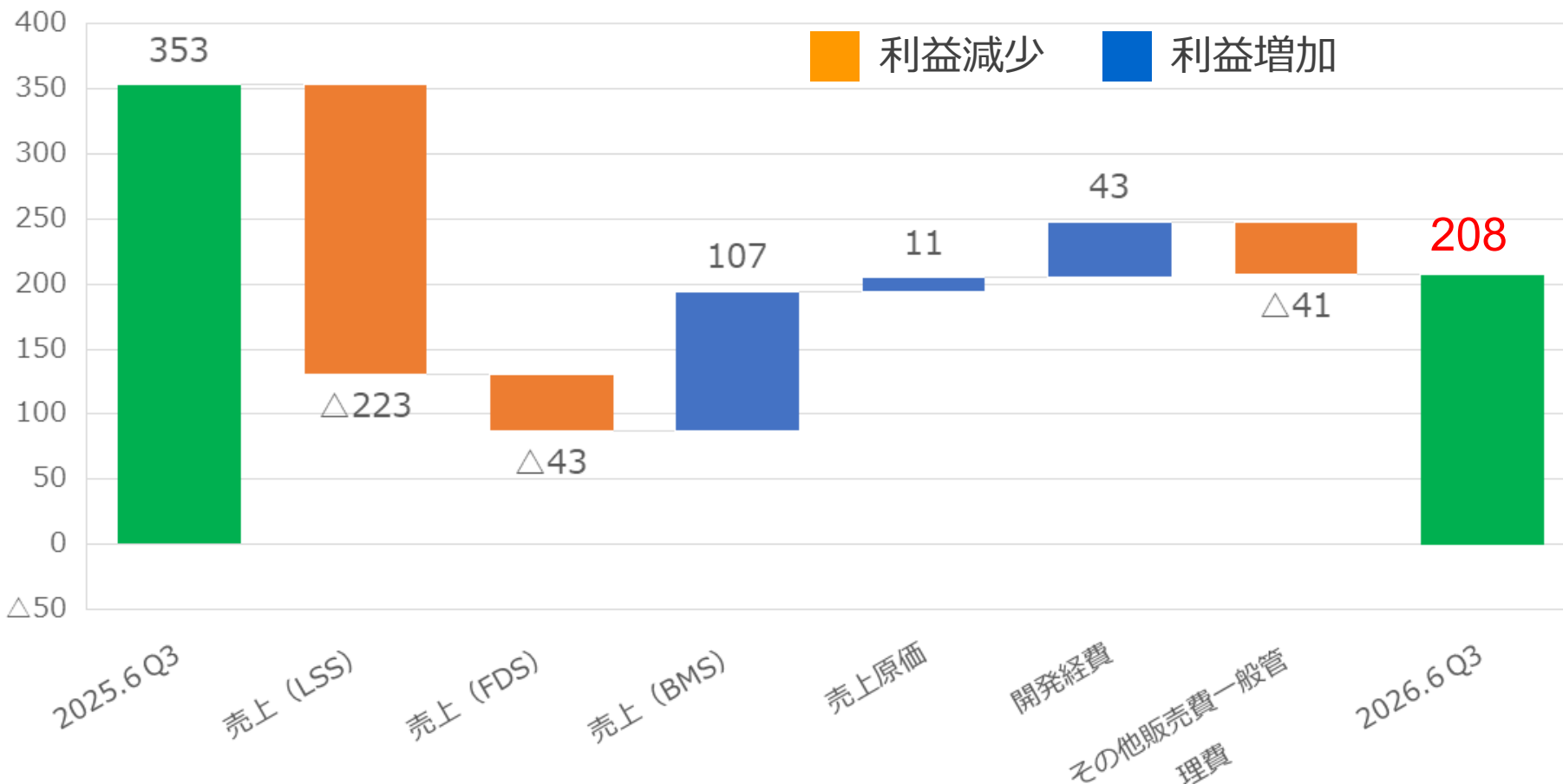
	2025年6月期 第3四半期	2026年6月期 第3四半期	増減額	増減率	主要因
ライフサイエンス 研究支援サービス (LSS)	994	771	△223	△22.5%	主に国内アカデミア年度末にかけての大型案件が大幅に減少したことが要因。また海外事業も引き続き低迷が続く。
機能性素材 開発支援サービス (FDS)	271	228	△43	△16.1%	顧客からの大型臨床試験スケジュール上、Q4での売上となる案件が多いため
バイオものづくり 支援サービス (BMS)	0	107	107	-	当初売上目標の1億円を超える。 化学分野と食品分野で各3割以上を占める。
合計	1,266	1,107	△159	△12.6%	

アカデミア分野では、大型案件が対前年比較で減少したため大幅に減少。食品企業・化学企業はバイオものづくり支援で増加するも、臨床試験時期に影響を受けて本累計期間までは減少。バイオものづくり支援などで製薬企業は増加。海外事業は低迷が継続。



営業利益 増減要因

(百万円)



※沖縄補助金プロジェクトの終了に伴い、開発人員を販売費に移管したことによる。

本資料の一部またはすべての複製・再配布は、お断りいたします。

參考資料



ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社

設立年月日：2003年7月1日

資本金：1,488百万円

取締役（社内）：大畑 恭宏（代表取締役社長）
紙 健次郎（取締役）

創業者：

富田 勝 慶應義塾大学名誉教授

曾我 朋義 慶應義塾大学教授

主な事業内容：メタボローム解析受託サービス

売上高（直近）：1,455百万円

従業員数（連結）：62名（博士：11名）

（2025年6月現在）

本社：山形県鶴岡市覚岸寺字水上246-2

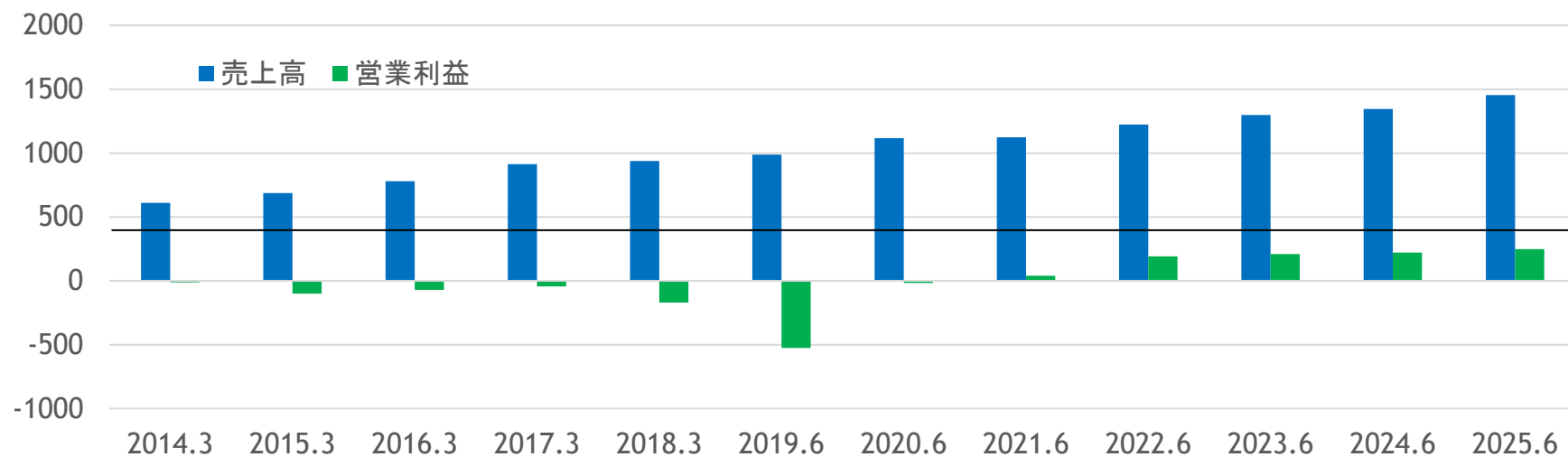
東京事務所：東京都中央区新川2-9-6

シュテルン中央ビル5階

子会社：HMTアメリカ アメリカボストン

- 2001 ● 慶応義塾大学先端生命科学研究所、山形県鶴岡市に開所
- 2003 ● 創業（創業者：慶応義塾大学 富田氏、曾我氏）
- 2012 ● Human Metabolome Technologies America Inc. 設立
- 2013 ● 上場（東証マザーズ（現グロース市場）：6090）
- 2023 ● 創業20周年
- 2025 ● 東証スタンダード市場上場（市場区分変更）

(百万円)



本資料に含まれる将来の見通し等に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後のマクロ経済動向、市場環境や当社の属するライフサイエンス業界の動向、当社の研究開発の進捗、その他内部及び外部要因により変動することがあります。

そのため、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通し等に関する記述と異なるリスクがあることを予めご了承ください。